

大藤原京右京北三条五坊

—平成 22 年度発掘調査報告書—

2011

財団法人元興寺文化財研究所

序

元興寺文化財研究所は、1967 年の設立以来、文化財に関する様々な分野の調査・研究を継続的に行ってまいりました。考古学的な発掘調査もこうした活動の柱の一つとして、西日本を中心に各地で実施し、多くの成果を上げているところです。

奈良県内におきましては、元興寺極楽坊境内をはじめ各地で実施してまいりましたが、今回、大藤原京内を調査する機会に恵まれました。調査地である、大藤原京右京三条五坊は、平城京のひとつ前の都である藤原京の北側に位置しています。調査面積は狭いものでしたが、藤原京期の遺構・遺物の広がりを確認することが出来ました。

発掘調査は、現地での調査だけで終わるものではありません。出土した遺物、採取した記録や写真などを整理し、報告書という形で公開することでようやく資料として活用されることになるのです。こうした一連の調査に、深いご理解と全面的なご協力をいただいた三洋ホームズ株式会社様には深い感謝の意を表したいと思います。また、調査に際しましては奈良県教育委員会、橿原市教育委員会はじめ多くの関係諸機関、諸氏のご協力を賜りました。あわせて、この場をお借りしましてお礼を申し上げます。

平成 23 年 12 月

財団法人元興寺文化財研究所

理事長 辻村泰善

例言

1. 本書は、大藤原京右京北三条五坊における発掘調査の成果を纏めたものである。
2. 本書記載対象遺跡の調査原因は、三洋ホームズ株式会社によるマンションの建設である。
3. 調査地は奈良県橿原市内膳町 5 丁目 428 に所在し、開発対象面積 675.30m²のうち発掘調査対象面積は 280m²である。
4. 調査は奈良県教育委員会から依頼を受けた㈱元興寺文化財研究所が、平成 23 年 1 月 21 日～平成 23 年 2 月 25 日まで現地の作業を実施し、村田裕介・佐藤亞聖・桃井宏和が担当した。
整理作業は調査終了後すみやかに着手し、平成 23 年度をそれに充当した。
5. 調査及び整理・報告書作成にかかる費用は全額大末建設株式会社大阪マンション事業部が負担した。
6. 現地の実測および写真撮影は村田・佐藤・桃井が行い、武田浩子（㈱元興寺文化財研究所）、松本寛之（奈良大学大学院）、亀岡唯（奈良大学）がこれを補佐した。出土遺物の実測および浮遊は村田・武田・仲井光代（㈱元興寺文化財研究所）が行い、遺物写真は大久保治（㈱元興寺文化財研究所）が撮影した。（所属は全て当時）
7. 本書で示す方位は座標北を使用した。座標は世界測地系を使用し、国土座標第 VI 系を使用した。
8. 本書で使用した土色名は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）に準拠した。
9. 本書の執筆・編集は村田が担当した。
10. 現地調査及び本書の作成においては下記の方々のご指導、ご協力をいただいた（五十音順、敬称略）。
青木香津江 宮原晋一 水野敏典 豊岡卓之（奈良県教育委員会） 齋藤明彦 濱口和弘（橿原市教育委員会）

目次

| | |
|--------------------------|----|
| 第 1 章 調査に至る経緯と調査体制 | 1 |
| 第 1 節 調査に至る経緯 | 1 |
| 第 2 節 調査体制 | 1 |
| 第 2 章 周辺における既往の調査と課題 | 2 |
| 第 3 章 調査の成果 | 4 |
| 第 1 節 調査区の配置と基本層序・遺構面の認定 | 4 |
| 第 2 節 古墳時代以前の遺構・遺物 | 6 |
| (1) 遺構 | 6 |
| (2) 遺物 | 8 |
| 第 3 節 古代以降の遺構・遺物 | 10 |
| (1) 遺構 | 10 |
| (2) 遺物 | 12 |
| 第 4 節 包含層出土の遺物 | 15 |
| 第 4 章 総括 | 17 |

挿図目次

| | |
|--|----|
| 図 1 調査地の位置 (S : 1/25,000) | 2 |
| 図 2 既往の調査と今回の調査区 | 3 |
| 図 3 北・西壁土層図 (S : 1/80) | 4 |
| 図 4 第1面検出遺構平面図 (S : 1/100) | 5 |
| 図 5 第2遺構面検出遺構平面図 (S : 1/100) | 6 |
| 図 6 SEO90 平面・土層断面・出土状況図 (平面・断面 S : 1/40 出土状況 S : 1/20) | 6 |
| 図 7 SD087 平面・土層断面図 (平面 S : 1/80 断面 S : 1/20) | 7 |
| 図 8 SK093・095・100・103 平面・土層断面図 (S : 1/40 SK103のみ S : 1/20) | 8 |
| 図 9 SEO90 出土遺物実測図 (S : 1/3) | 9 |
| 図 10 SK093・095・100・103 出土遺物実測図 (S : 1/3、2/3) | 9 |
| 図 11 SB105 平面・土層断面図 (S : 1/40) | 11 |
| 図 12 SD075 平面・土層断面図 (S : 1/40) | 11 |
| 図 13 SD088 土層断面図 (S : 1/40) | 11 |
| 図 14 SK080 平面・土層断面図 (S : 1/20) | 11 |
| 図 15 SP085 平面・土層断面図 (S : 1/20) | 12 |
| 図 16 SP086 平面・土層断面図 (S : 1/20) | 12 |
| 図 17 SB105 出土遺物実測図 (S : 1/3) | 12 |
| 図 18 SD075・088 出土遺物実測図 (S : 1/3) | 13 |
| 図 19 SK080、SP085・086 出土遺物実測図 (S : 1/3) | 13 |
| 図 20 素掘小溝出土遺物実測図 (S : 1/3) | 14 |
| 図 21 包含層出土遺物実測図 (S : 1/3) | 16 |
| 図 22 遺構配置略図 (S : 1/100) | 21 |

表目次

| | |
|-----------------------------|----|
| 表 1 報告遺物一覧 (1) | 22 |
| 表 2 報告遺物一覧 (2) | 23 |
| 表 3 検出遺構および出土遺物一覧 (1) | 24 |
| 表 4 検出遺構および出土遺物一覧 (2) | 25 |
| 表 5 検出遺構および出土遺物一覧 (3) | 26 |

写真図版目次

- | | |
|--|----------------------|
| 図版 1 上段：調査区西半全景（南から） | 下段：調査区東半全景（南から） |
| 図版 2 上段：SE090 土層断面（南西から） | 下段：SD087 土層断面（南東から） |
| 図版 3 上段：SK093 土層断面（南から） | 下段：SK095 土層断面（北東から） |
| 図版 4 上段：SK100 土層断面（南から） | 下段：SK103 遺物出土状況（南から） |
| 図版 5 上段：SB105 全景（西から） | 下段：SD075 土層断面（東から） |
| 図版 6 上段：SD088 土層断面（南から） | 下段：SK080 土層断面（東から） |
| 図版 7 上段：SP085 土層断面（南から） | 下段：SP086 土層断面（南から） |
| 図版 8 上段：素掘小溝検出状況（北東から） | 下段：調査区南壁土層断面（北から） |
| 図版 9 上段：調査区北壁土層断面（南西から） | 下段：下層確認深掘トレンチ（南東から） |
| 図版 10 SE090 出土遺物 | |
| 図版 11 SE090・SK093 出土遺物 | |
| 図版 12 SK095・SK100 出土遺物 | |
| 図版 13 SK103・SB105・SD075 出土遺物 | |
| 図版 14 SD088・SK080・SP085・SP086・素掘小溝出土遺物 | |
| 図版 15 素掘小溝出土遺物 | |
| 図版 16 素掘小溝出土遺物 | |
| 図版 17 素掘小溝・包含層出土遺物 | |
| 図版 18 包含層出土遺物 | |
| 図版 19 包含層出土遺物 | |

第1章 調査に至る経緯と調査体制

第1節 調査に至る経緯

平成22年11月4日付けで三洋ホームズ株式会社より共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘の届出が提出された。これを受けて平成22年12月9日に奈良県教育委員会は当地が大藤原京の範囲内であることから、橿原市教育委員会へ発掘調査の実施を指示、平成22年12月16日に橿原市教育委員会が試掘調査を実施し、敷地北東隅に設定したトレンチの地表下1.7mにおいて遺構を確認した。この結果を受けて橿原市教育委員会は発掘調査実施にむけた協議を開始した。しかし、工期を勘案した結果、公共機関による発掘調査は困難と判断されたため、興福寺文化財研究所へ発掘調査を依頼することとなった。

平成23年1月14日付けで県教委より発掘調査の依頼を受けた興福寺文化財研究所は、平成23年1月18日、大藤原京右京北三条五坊の発掘調査業務に係る委託契約を三洋ホームズ株式会社と締結、平成23年1月20日に発掘調査届出を提出のうえ、平成23年1月21日より現地調査を開始した。

現地調査は平成23年2月25日に終了し、その後すみやかに整理・報告書作成業務に移行した。現地発掘調査から報告書作成に至る間、三洋ホームズ株式会社の全面的な支援・協力があった。また、奈良県教育委員会、橿原市教育委員会からの適切なご指導を賜った結果、調査・整理作業を無事に終了することが出来た。関係各位に感謝する次第である。

第2節 調査体制

発掘調査並びに整理・報告書作成は以下の体制で実施した。

調査指導：奈良県教育委員会・橿原市教育委員会

調査主体：財團法人元興寺文化財研究所

理 事 長 辻村泰善

所 長 坪井清足

事務局長 江島和哉

研究部長 狹川真一

考古学研究室

室 長 伊藤健司

主任研究員 佐藤亞聖

研究員 村田裕介

研究員 桃井宏和（平成23年3月まで）

現地作業員：株式会社島田組

測 量：株式会社アコード

第2章 周辺における既往の調査と課題

調査地は橿原市内膳町5丁目に位置する。調査地は大藤原京右京北三条五坊南西坪にあたる。古代条里においては、十市郡路西二十三条一里字カウケン・字東十五にまたがっている。

今回の調査地である大藤原京右京北三条五坊内では、これまでにも橿原市教育委員会による調査が行われている。本調査地が位置する南西坪では、1998年に行われた調査(橿教委1998-7次3トレンチ)で、北二条大路の両側溝が検出されている。ここでは奈良時代になると、それまで道路として使用されており、遺構の見られなかった土地に建物群や戸井戸が確認されており、藤原京廃絶後、道路としての使用がなくなり居住地へと変化したことが分かる。2001年には、本調査区のすぐ北側で調査が行われている(橿教委2001-5次)。北西坪では、2007年には、本調査地より北へ約150mの地点にて発掘調査が行われており、藤原京期の掘立柱建物や溝、塀などが確認されている(橿教委2007-4次)。

藤原京期以外では、周辺では埋没古墳や同時期の土坑などの遺構が確認されている(橿教委2002-14次、2004-9次など)。また、広い範囲で弥生時代の遺物も出土している。

今回の調査では、藤原京期の土地利用の様相を解明することはもちろん、弥生時代から古墳時代にかけての遺構遺物についても存在が期待され、当該期の跡遺の様相も課題となる。加えて、坪境が調査区内に位置することから、坪境溝の検出も想定される。

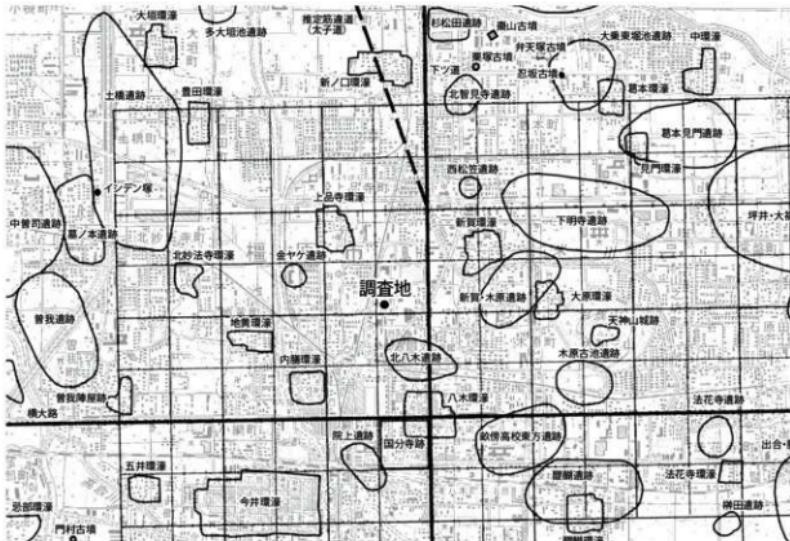


図1 調査地の位置 (S:1/25,000)

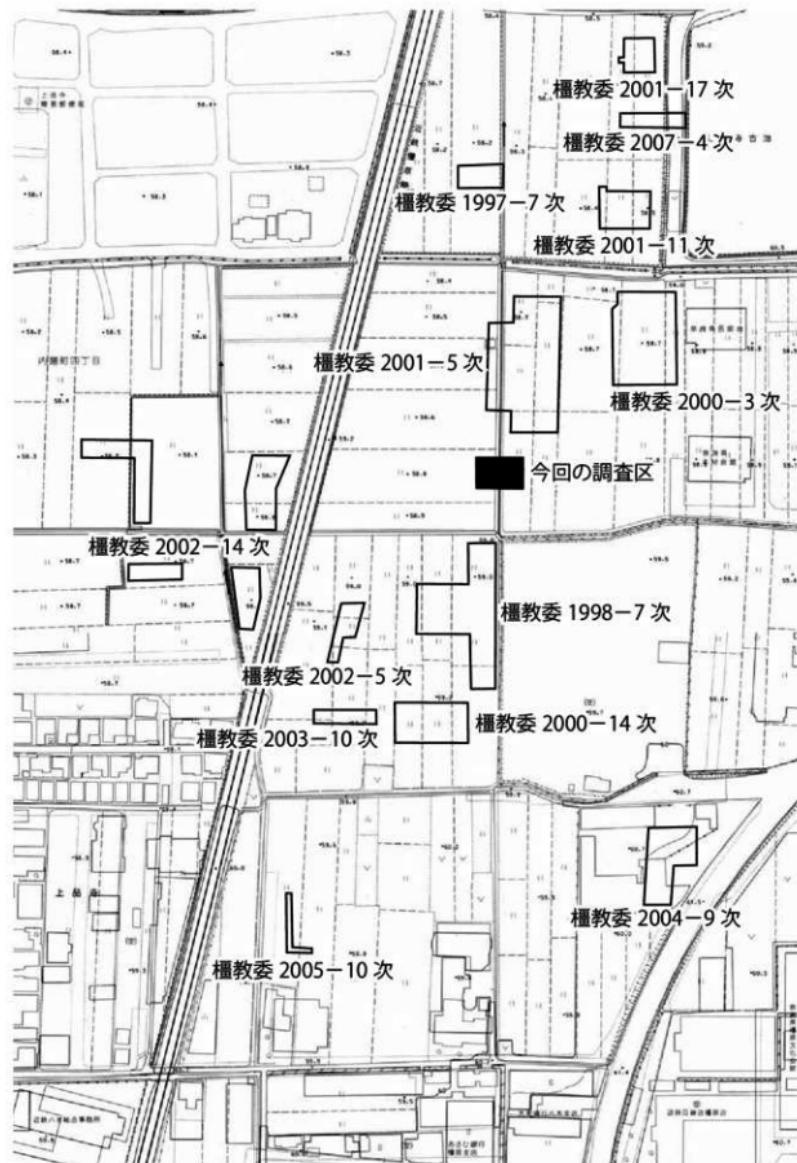


図2 既往の調査と今回の調査区

第3章 調査の成果

第1節 調査区の配置と基本層序・遺構面の認定

開発対象地のほぼ全域の地下遺構に開発が及ぶが、調査中の作業の安全を確保するために、開発対象地の外縁部を調査対象地から外す形で調査区の配置を行った。

調査は当初1面のみを想定していたが、調査区東部において素掘小溝による削平を免れた藤原京以

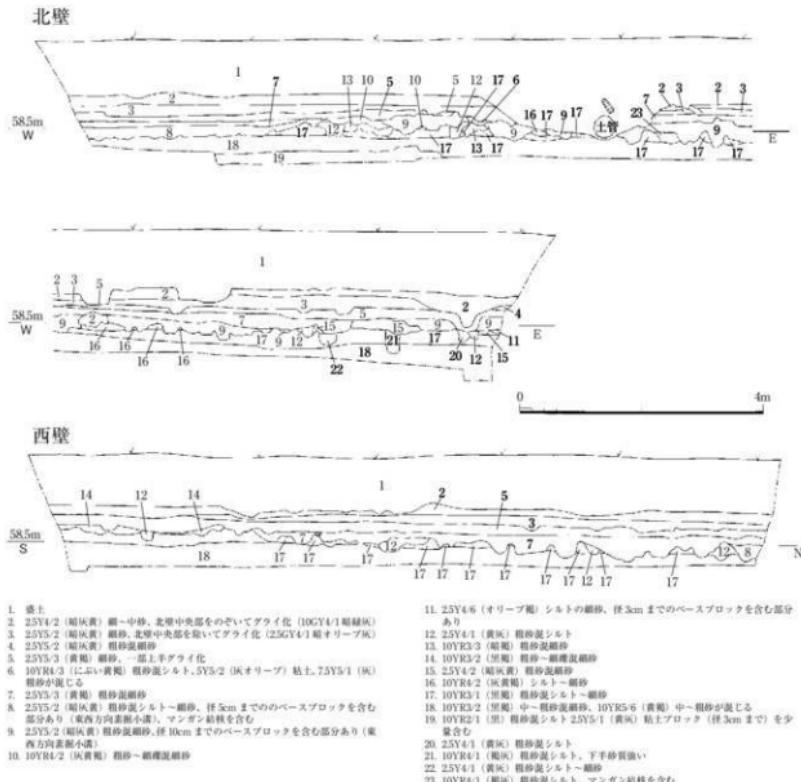


図3 北・西壁土層図 (S:1/80)

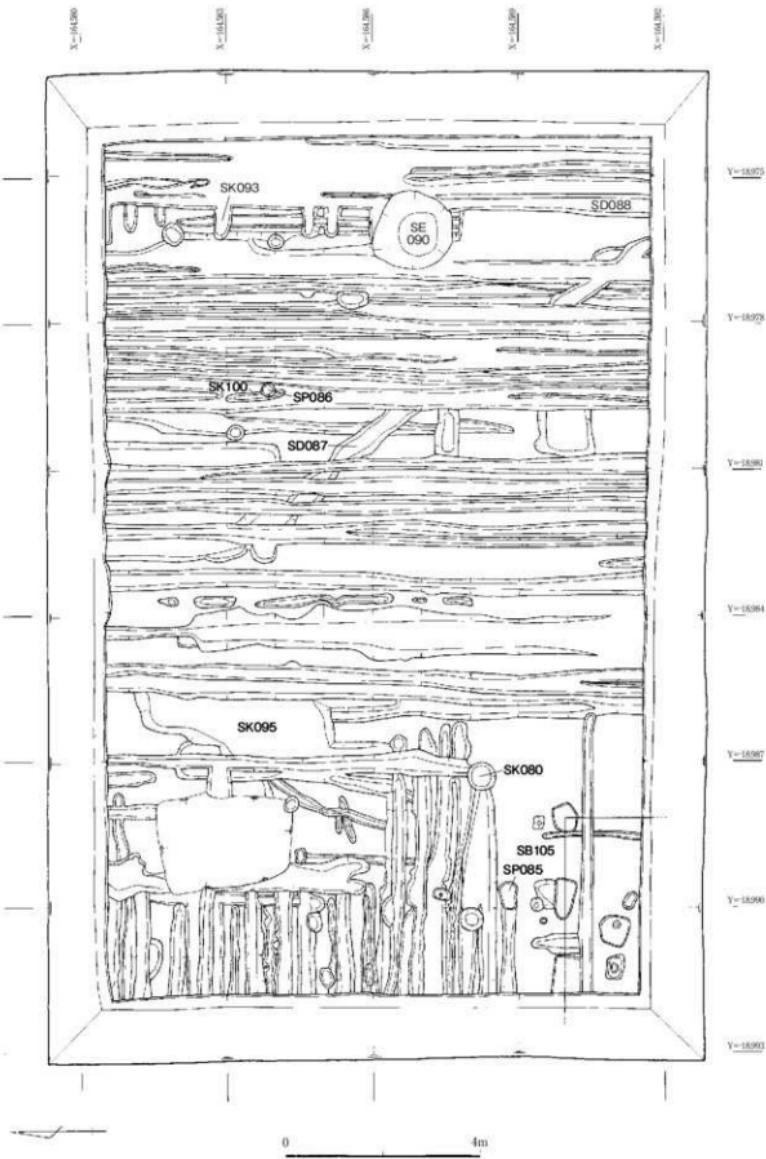


図4 第1面検出遺構平面図 (S:1/100)

前の包含層が僅かではあるが残されていたため、この部分のみ2面を調査した。

基本層序は盛土下の層厚約20cmの現代耕作土、層厚約30cmの中近世包含層を除去した灰黄褐シルト上面が遺構面である。遺構面は後述する坪境溝を境に高低差があり、かつ西側においては南北でも高低差が見られた。調査区内における標高は、南西が最も高く約58.20m、北西で57.95m、東側で約57.85mである。

調査終了後に行った下層確認では、遺構面より30cm下で河川によるものと考えられる砂層の堆積が見られた。出土遺物ではなく、時代等は不明である。

第2節 古墳時代以前の遺構・遺物

(1) 遺構

井戸

SE090（遺構：図6、遺物：図9）

調査区東側中央付近で検出

した。第1面で検出したが、遺物の様相などから、本来、第2面に属すると考えられ、遺構の影響による被覆包含層の変色を遺構埋土と認めたため、第1面で検出・掘削を行ってしまった可能性が高い。

平面形は、直径約1.6mの不整円形を呈し、深さは約0.9mを測る。井戸枠は確認できず、素掘りの井戸であったと考えられる。埋土は大きく2層に分かれ、上層から黒褐色細砂、オリーブ黒色シルトである。

遺物は主に上層より出土しており、庄内式期のうちに埋没したことが分かる。

溝

SD087（遺構：図7）

調査区の南西から北西へと座標北から西へ39°振れる方



図5 第2遺構面検出遺構平面図 (S:1/100)

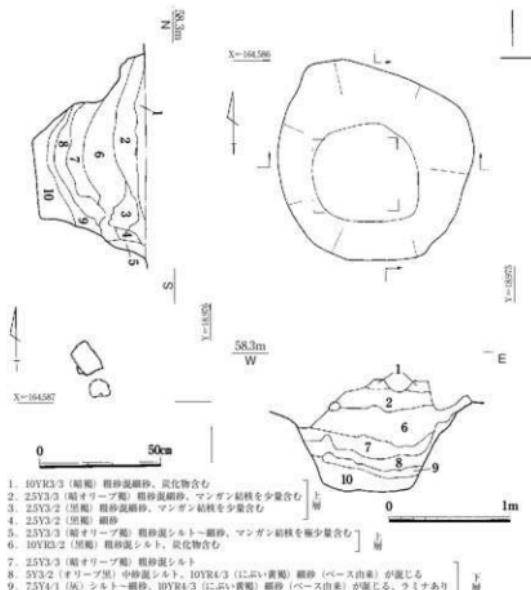


図6 SE090 平面・土層断面・出土状況図 (平面・断面 S:1/40 出土状況 S:1/20)

向で斜行し、E2杭付近では北へ向ける方向へ折れ、調査区外へと伸びる。底部断面形態は「U」字形を呈し、幅は0.4～0.5m、深さは0.36mを測る。埋土は概ね2層からなり、上層から灰黄褐色砂、暗褐色シルトである。流水の痕跡は見られない。

埋土からは、庄内式に属すると考えられる甕が出土している。

土坑

SK093（遺構：図8、遺物：図10）

調査区東側北寄りで検出した。東側は素掘小溝による破壊のため不明である。南北幅0.35m、残存している東西幅0.6mを測る。平面形は東西に長い楕円形を呈すると考えられる。底面は「U」字形を呈し、深さは0.15mである。埋土はシルト～細砂である。

埋土からは、高杯脚部が出土している。

SK095（遺構：図8、遺物：図10）

調査区北側西寄りで検出した。遺構の東西は素掘小溝などに破壊されており、東西の規模は不明だが、南北の長さは4.2mを測る。平面形は南北に長い不整形を呈するものと考えられる。底面はほぼ平坦になっており、深さは0.25mである。埋土は黒褐色砂からなる。

遺物は庄内式に属する甕、高杯が出土している。

SK100（遺構：図8、遺物：図10）

調査区北側中央付近で検出した。素掘小溝により大きく破壊されており、全体の形は不明である。残存している規模は長さ1.23m、幅0.17mである。底部断面形態は「U」字形を呈し、深さは0.12mを測る。埋土は黒褐色砂からなる。

埋土より縄文土器と石器が出土している。

SK103（遺構：図8、遺物：図10）

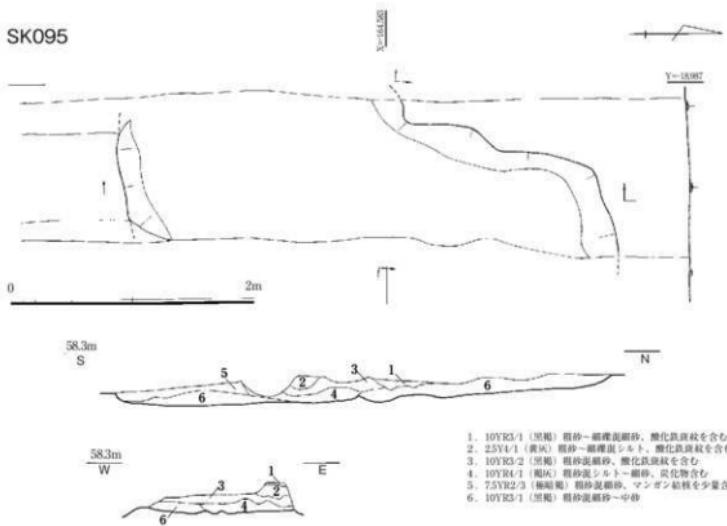
調査区東側北寄りで検出した。第2遺構面に属する。北半は調査区外にあるため全形は不明であるが、直径0.55mを測り、平面形は円形を呈するものと考えられる。埋土は砂混じりシルトである。

底部付近より、小型丸底甕2個体と不明土製品が出土している。

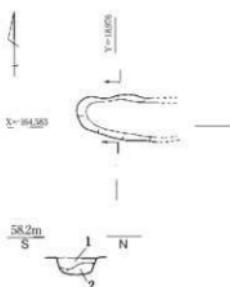


図7 SD087 平面・土層断面図（平面S:1/80 断面S:1/20）

SK095

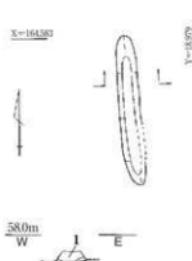


SK093



1. 10YR4/2 (米黃褐色) 粗砂泥質砂
2. 10YR3/2 (黒褐色) シート～粗砂

SK100



1. 10YR2/2 (黒褐色) 細～中砂、2.5Y4/1
〔黄褐色〕 粗土～混じる
2. 10YR3/3 (褐褐色) 粗砂泥質砂

SK103



1. 2.5Y4/1 (黄褐色) 中～粗砂泥シート
0 50 cm

図8 SK093・095・100・103 平面・土層断面図 (S:1/40 SK103のみS:1/20)

(2) 遺物

SE090 出土遺物 (図9)

上層出土遺物

土師器甕 (1～4) 1、2は、口縁部ヨコナデ、体部内面を横方向のケズリ調整、体部外表面はタタキ調整。2は口縁部外表面にもタタキ調整の痕跡が残る。3は口縁部ヨコナデ、体部内面をケズリ調整、体

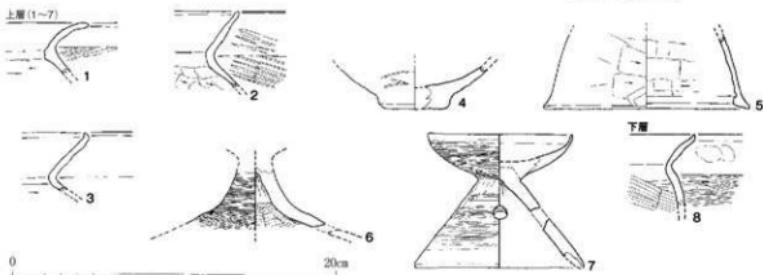


図9 SE090出土遺物実測図 (5:1/3)

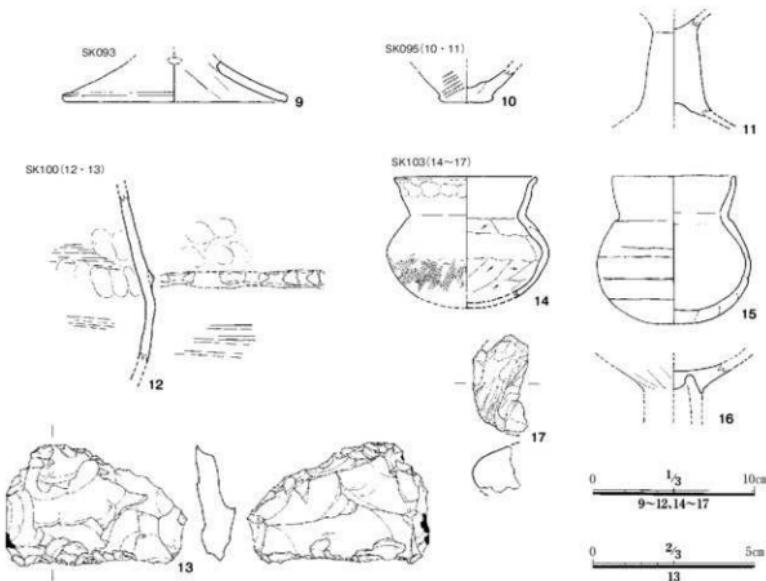


図10 SK093・095・100・103出土遺物実測図 (5:1/3, 2/3)

部外面の調整は不明。口縁部は弱く内湾し、口縁端部を上方へつまみ上げる。4は底部。外面はタタキ調整、内面はナデ調整である。底部の突出はやや弱い。

土師器台付甕（5）5は台付甕の台部。内外面ともに横方向のヘラケズリ調整を施す。端部は内面に折り返している。

土師器高杯（6）6は高杯の脚柱部である。外面には密な横方向のヘラミガキ調整、脚柱部内面は横方向のハケメ調整、脚柱部内面にはシボリ痕が残る。

土師器器台（7）7は皿状の受け部を持つ器台である。外面には密な横方向のヘラミガキ調整、内

面はナデ調整が施され、受部と脚部の接合部付近の外面に縦方向のヘラケズリ調整が行われている。脚部の透孔は1段で4孔をあけたものと推定できる。

下層出土遺物

土師器甕(8) 8は甕口縁部である。口縁部はヨコナデし、体部外面をタタキ調整、体部内面を横向のハケメ調整をする。

これらの遺物は、大和第VI-2様式～庄内式後半のものである。

SK093 出土遺物(図10)

土師器高杯(9) 9は高杯脚裾部である内外面ともにナデ調整を行い、裾端部はヨコナデ調整をする。内面には工具痕が残る。

SK095 出土遺物(図10)

下層出土遺物

土師器甕(10) 10は甕底部である。平底を呈し、突出はほとんどない。内面の調整は不明だが、外表面はタタキ調整をする。

土師器高杯(11) 11は高杯脚柱部である。表面劣化のため、内外面とも調整は不明である。中央の形態をとる。

これらの遺物は、庄内式前半のものである。

SK100 出土遺物(図10)

縄文土器深鉢(12) 12は深鉢の体部片である。摩滅のため、内外面の調整は不明である。断面形態が三角形の突帯文が1条めぐり、突帯文には「D」字形の刻目がつく。船橋式に該当する。

二次加工剥片(13) 13はサヌカイト製である。側縁部に不揃いな剥離がなされる。重量は22.6 gを測る。

SK103 出土遺物(図10)

土師器小型丸底壺(14・15) 14は偏球形の体部を持ち、口縁部は外方へ開きながら直線的に伸び、端部付近で短く外折する。口縁部はヨコナデ調整する。体部外面はナデ調整後、下半をハケメ調整、体部内面はケズリ調整後、上半に横方向のナデ調整を施す。15は球形の体部を持ち、口縁部は内湾気味である。口縁部をヨコナデ調整、体部内外面をナデ調整する。体部外面には粘土紐の接合痕が残る。14と比較すると、胎土はやや粗い。

土師器高杯(16) 16は杯底部である。内外面ともナデ調整する。

不明土製品(17) 17は土製品であるが、何を模したものかについては不明である。ナデ調整を行い、扁平な形態をとる。胎土はやや粗い。

これらの遺物は、古墳時代中期前半のものである。

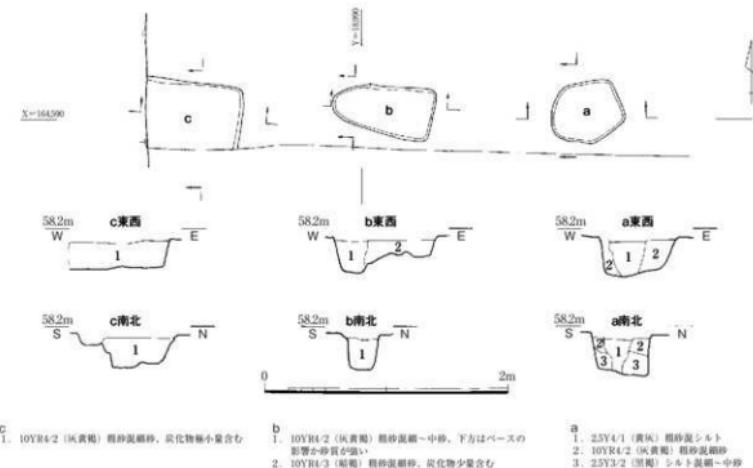
第3節 古代以降の遺構・遺物

(1) 遺構

掘立柱建物

SB105(遺構:図11、遺物:図17)

調査区南西部で検出した。A～dの4本分の柱穴で構成されるが、平面で確認できたのはa～cの柱穴であり、dは南側調査区壁で確認している。柱穴の平面形は、円形や隅丸方形と様々であり、平面規模は長軸で0.6～0.85m、深さは約0.3mを測る。いずれの柱穴も柱は抜き取られている。



遺物は、土師器甕が出土している。

溝

SD075 (遺構: 図 12、遺物: 図 18)

調査区北西部で検出した東西方向に流れる溝である。素掘小溝などに破壊され、長さ 1.0m が残存するのみである。底部断面形態は「U」字形を呈し、深さは 0.15 m を測る。

埋土は粗砂混じりのシルトからなり、流水の痕跡は見られない。

SD088 (遺構: 図 13、遺物: 図 18)

調査区東側で検出し

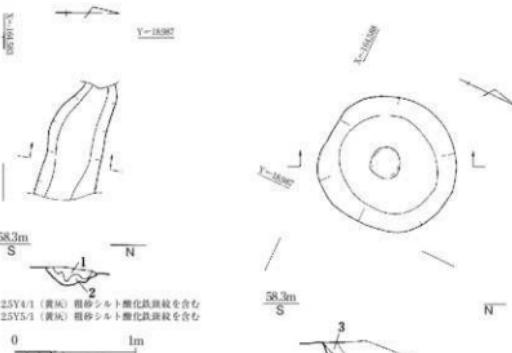


図 14 SK080 平面・土層断面図 (S:1/20)

た南北方向に流れる溝である。東側肩は素掘小溝により破壊されている。底部断面形態はゆるやかな「U」字形を呈し、深さは 0.2 m を測る。埋土は黄灰色砂からなり、流水の痕跡は見られない。

土坑

SK080 (遺構: 図 14、遺物: 図 19)

調査区南西部で検出した。平面形は円形を呈し、直径は 0.55 m を測る。底面はゆるやかな「U」字形をとり、深さは 0.35 m である。埋土は大きく 2 層に分かれ、上層から黒褐色シルト、黒褐色砂であり、人為的に埋められたものと考えられる。

遺物は、底部より土師器皿が正位置で出土している。

ピット

SP085 (遺構: 図 15、遺物: 図 19)

調査区南西部で検出した。平面形は隅丸方形を呈し、長さ 0.57 m、幅 0.4 m を測る。深さは 0.16 m で、底面は平坦である。埋土は 1 層で、暗褐色砂である。底面東側には、礎石状の石が据えられていた。石の上面はほぼ平坦になつておらず、柱を支えたものと考えられるが、周囲には同様の遺構は見られなかった。石材は花崗岩である。

遺物は出土していない。

SP086 (遺構: 図 16、遺物: 図 19)

調査区北西部で検出した。上部は素掘小溝により破壊されている。平面形は円形を呈し、直径は約 0.3 m である。残存する深さは 0.25 m で、底部はほぼ平坦である。埋土は黒褐色粘土からなる。検出面において、土師器皿が正位置で出土している。

素掘小溝 (遺構: 図 4、遺物: 図 20)

調査区全面で検出した。暗灰黄色細砂を埋土とし、ベース土のブロックを含む。幅 0.3 ~ 0.5 m、深さ 0.1 ~ 0.3 m を測り、断面形態は「U」字形を呈する。底部には掘削道具の刃先痕が残る。埋土内からは、土師器皿や瓦器などが出土しており、これらの遺物より考えられる下限の年代は 14 世紀前半である。

(2) 遺物

SB105 出土遺物 (図 17)

土師器甕 (18・19) 18・19 は甕口縁部で弱く外反する形態をとる。18 は内外面ともにヨコナデ調整し、端部外面に面を持つ。19 は口縁端部のみヨコナデ調整し、口縁部内面にはハケメ調整、外面にはユビオサ工痕が残る。

これらの遺物は、藤原京期の可能性もあるが、断



図 15 SP085 平面・土層断面図 (S : 1/20)

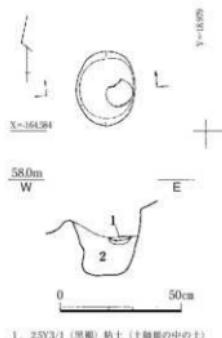


図 16 SP086 平面・土層断面図 (S : 1/20)



図 17 SB105 出土遺物実測図 (S : 1/3)

定は出来ない。

SD075 出土遺物（図18）

土師器杯（20）20は杯A口縁部である。内外面をナデ調整し、底部付近にはケズリ調整が確認できる。飛鳥Vに相当するものである。

SD088 出土遺物（図18）

土師器杯（21・22）21・22は杯A口縁部である。内外面にナデ調整を施した後、外面にヘラミガキ調整を施す。22には黒斑が認められる。

土師器椀（23）23は椀A口縁部である。内外面にナデ調整を施した後、外面にヘラミガキ調整を施す。

土師器皿（24）24は皿口縁部である。内外面をナデ調整する。

須恵器蓋（25）25は摘み部分のみ残存している。

扁平な形態をとる。

21・22は藤原京期、23～25は奈良時代後半のものである。

SK080 出土遺物（図19）

土師器皿（26）26は口縁部を僅かに外反させる形態をとる。口縁部はヨコナデ調整、体部は内面はナデ調整を行う。外面にはユビオサエ痕が残る。胎土にはクサリ礫が多く含まれる。

10世紀中頃のものである。

SP085 出土遺物（図19）

土師器壺（27）27は小型の壺である。内面及び口縁部外面をヨコナデ調整する。体部外面にはユビオサエ痕が残る。

SP086 出土遺物（図19）

土師器椀（28）28は椀Aである。口縁部はヨコナデ調整し、体部は内面はヨコナデ調整、外面はナデ調整でユビオサエ痕が残る。底部はナデ調整する。口縁部及び底部付近の外面に接合痕が確認できる。焼成はやや悪い。

10世紀中頃のものである。

素掘小溝出土遺物（図20）

繩文土器深鉢（29～32）29～32は深鉢である。29は内面はナデ調整、外面は条痕調整を行い、口縁部よりやや下がった位置に1条の突帯文を上方からナデつける。突帯文の断面形態は三角形を呈し、「D」字形の刻目がつく。30・31は内外面ともナデ調整を行い、口縁部よりやや下がった位置に1条の突帯文を上下方からナデつける。突帯文の断面形態は三角形を呈し、「D」字形の刻目がつく。32は肩付近で、内面はナデ調整、外面は条痕調整を行い、1条の突帯文を上方からナデつける。突帯文の断面形態は三角形を呈し、「D」字もしくは「V」字の刻目がつく。

これらの遺物は、船橋式に該当するものである。

土師器甕（33～35）33・34は甕口縁部である。33は内湾し、端部が内側に肥厚する。内面は横方向の粗いハケメ調整後ヨコナデ調整、外面は横ナデ調整をする。黒斑が残る。布留式に該当する。

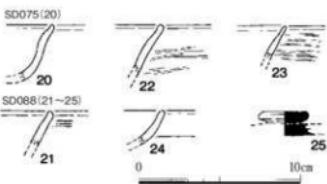


図18 SD075・088 出土遺物実測図 (S:1/3)

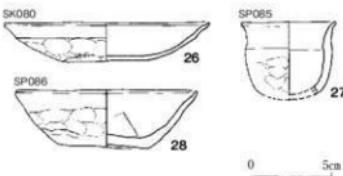


図19 SK080、SP085・086 出土遺物実測図 (S:1/3)

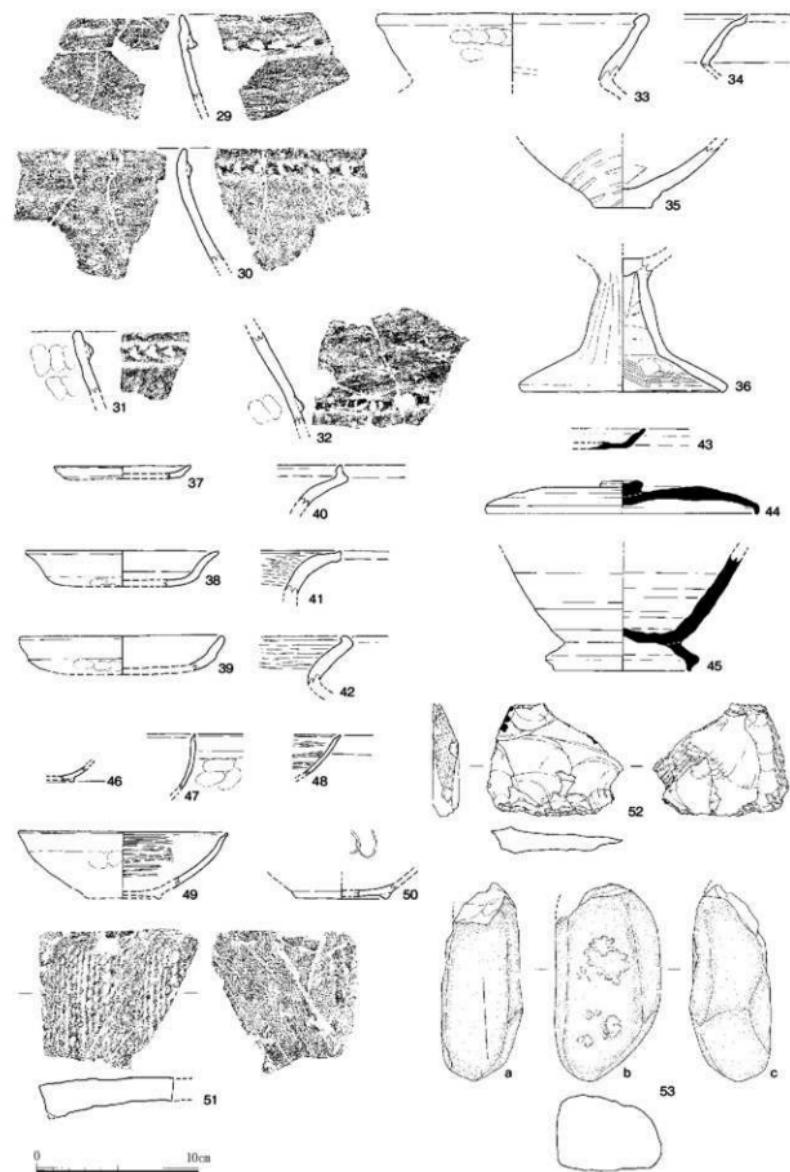


图 20 素描小满出土遗物实测图 (5 : 1/3)

34は口縁部内外面をヨコナデ調整する。直線的に外方へ開き、口縁端部付近で外反し、端部は上方へつまみ上げる。庄内式に該当する。35は甕底部である。突出した平底を持つ。内面はナデ調整、外面は右上がりのタタキ調整を行う。生駒西麓産である。庄内式に該当する。

土師器高杯（36）36は高杯脚柱部から脚裾部にかけてである。杯部内底面はハケメ調整、脚柱部は内面を横方向のケズリ調整、外面を縦方向のミガキ調整、脚裾部は内面を横方向のハケメ調整、外面をナデ調整する。脚柱部内面上半にはシボリ痕が残る。

土師器皿（37～39）37・39は内面及び口縁部をヨコナデ調整する。底部外面にはユビオサエ痕が残る。38は体部内面をナデ調整、口縁部をヨコナデ調整する。体部外面はナデ調整するが、ユビオサエ痕が残る。いずれも13世紀半ばのものである。

土師器甕（40～42）40～42は甕口縁部である。40は内外面ともにヨコナデ調整をする。口縁端部は上方へ拡張する。41は口縁部内面を横方向のハケメ調整、口縁端部から口縁部外面をヨコナデ調整する。42は口縁部内面を横方向のハケメ調整をする。外面については、表面劣化のため不明である。

須恵器皿（43）43は皿Cである。内外面ともに回転ナデ調整を施す。

須恵器蓋（44）44は内外面ともに回転ナデ調整を施し、天井部外面は回転ヘラケズリ調整、天井部内面は不定方向のナデ調整が行われる。内面には非常に平滑となっている部分があり、硯として転用されたものと考えられる。飛鳥V・平城Iに該当する。

須恵器壺（45）45は壺であるが、下半のみが残存している。内外面ともに回転ナデ調整を施し、高台付近の体部外面に回転ヘラケズリ調整を行う。底部内面及び外面の一部に自然釉がかかる。

黒色土器椀（46）46は黒色土器B類椀底部である。表面劣化のため、調整は不明である。胎土に微細な黒雲母が多く含まれる。11世紀のものである。

瓦器椀（47～50）47は椀口縁部である。表面劣化のため、内面の調整は不明瞭、外面体部にはユビオサエ痕が残る。IV段階B型式に該当し、14世紀前半のものである。48は椀口縁部である。内面にヘラミガキ調整を施す。外面は表面劣化のため不明である。III段階C型式に該当し、13世紀半ばのものである。49は椀口縁部である。内面にヘラミガキ調整を施し、外面体部にはユビオサエ痕が残る。III段階B型式に該当し、13世紀前半のものである。50は椀底部である。見込みに連結輪状の暗文が施される。III段階B型式に該当し、13世紀前半のものである。

瓦（51）51は平瓦である。凹面部には粗い布目痕が残り、凸面部には繩目タタキを施す。端面・側面とともにケズリ調整である。奈良時代以降のものである。

二次加工剝片（52）52はサヌカイト製である。自然面を多く残し、側縁部に不揃いな剥離がなされる。重量は84.0gを測る。

敲石（53）53は細長い棒状の自然礫を素材とする。b面に敲打痕が認められる。石材は斑レイ岩である。重量は622gを測る。

第4節 包含層出土の遺物（図21）

暗褐砂出土遺物

繩文土器深鉢（54）54は深鉢口縁部である。内外面ともにナデ調整を施し、内面にはユビオサエ痕が残る。口縁端部に上端を合わせて突帯文がめぐる。突帯文は上方からのみナデ付けられている。長原式に該当する。

土師器甕（55～57）55・56は甕口縁部である。55は口縁部をヨコナデ調整する。体部内面はヘ

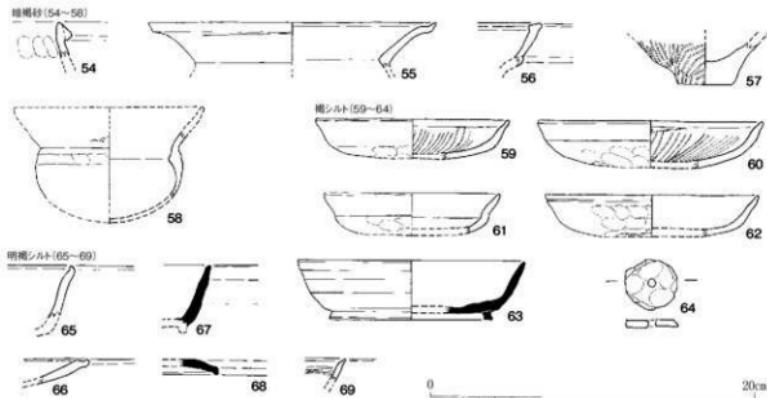


図21 包含層出土遺物実測図 (S:1/3)

ラケズリ調整かと思われるが、表面劣化のため不明瞭である。口縁部は外反し、口縁端部で上方につまみ上げる形態をとる。庄内式に該当する。56は外外面ともにヨコナデ調整する。口縁部は弱く内湾し、口縁端部は内面に肥厚する。口縁部下端外面に弱い段を持つ。布留式に該当する。57は甕底部である。内面はナデ調整、外面は右上がりのタタキ調整を施す。

土師器小型丸底壺（58） 58は小型丸底壺頸部である。内面は表面劣化のため調整は不明、外面は頸部をヨコナデ調整、体部はケズリ調整後ナデ調整する。

褐シルト出土遺物

土師器皿（59・60） 59は杯Cである。ヨコナデ調整を施し、底部外面にはユビオサエ痕が残る。体部内面には放射状暗文を施す。60は杯Cである。内外面ナデ調整を施し、底部外面にはユビオサエ痕が残る。体部内面には放射状暗文を施す。

土師器皿（61・62） 61は皿口縁部である。内面及び口縁部にヨコナデ調整を施し、底部外面にはユビオサエ痕が残る。13世紀後半のものである。62は皿Cである。内外面ともにナデ調整し、体部及び底部外面にはユビオサエ痕が残る。口縁部外面に1条の沈線がめぐる。

須恵器皿（63） 63は杯B底部である。内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部外面は回転ヘラキリ後ナデ調整を行う。

土製円盤（64） 64は杯もしくは皿の底部を転用したものである。内外面ともにナデ調整される。重量は5.9gを測る。

明褐色シルト出土遺物

土師器皿（65） 65は杯A口縁部である。表面劣化のため内外面の調整は不明である。

土師器高杯（66） 66は高杯A口縁部である。内外面ともにナデ調整を施す。

須恵器皿（67） 67は杯B口縁部である。内外面ともに回転ナデ調整を施し、下端には高台を貼り付ける際のナデ調整が確認できる。

須恵器蓋（68） 68は蓋口縁部である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。

黒色土器椀（69） 69は黒色土器A類椀口縁部である。内面にヘラミガキ調整が施される。

第4章 総括

今回の調査では、素掘小溝による下層遺構の破壊が著しく、素掘小溝完掘後に断片的に把握するのにとどまつたものがほとんどである。

本調査区において検出された遺構及び遺物は、縄文時代晚期に属するものを最古とし、庄内式期～古墳時代にかけても散在的ではあるが確認できる。周間に展開する埋没古墳に関連するものは確認できていない。

藤原京期の遺構については、可能性のある掘立柱建物を1棟確認したのみである。素掘小溝内からは、当該期の遺物の出土もみられたので、本来はもう少し遺構の広がりがあったものと推定できる。

本調査地において、全面的に検出したものに素掘小溝がある。調査対象地内では、Y=18,984付近が条里地割の坪境となっており、これを境として東西で素掘小溝の様相に差異がみられる。東側では全ての素掘小溝は南北方向に走るのに対して、西側では坪境に向かって西から東へ伸び、坪境の手前で北へ折れるという「L」字の素掘小溝が検出されている。また、坪境の東西で、検出面の標高が約20cm差があり、西側が高い。これらのことから、坪境で明確に土地の利用が区切られていたと考えることが出来る。

また、西側の坪においては、南側半分ほどが素掘小溝の分布が極めて少ない状況であった。これは、坪内における土地利用の違いによって、土壤へ作用する深さがことなったため、もしくは、遺構としては確認ができなかったが、簡単な小屋のような建物などが構築されていたことによって、耕作が及ばなかったためと考えることができる。残念ながら、今回の調査では、それについて明確な答えを出すことはできない。このような農耕地内での土地利用のあり方の解明のためにも、素掘小溝やそれに付随する遺構についての、より丹念な調査が望まれる。

参考引用文献

- 近江俊秀・森島康雄 1995「瓦器検」『概説中世の土器陶磁器』中世土器研究会
- 川口宏海 1990「16世紀における大和型土釜の動向」『中近世土器の基礎研究』VI 日本中世土器研究会
- 小島俊次 1965『奈良県の考古学』吉川弘文館
- 菅原正明 1983「畿内における土釜の製作と流通」『文化財論叢』奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集
- 露口真広 2006「大藤原京右京北二条五坊」『平成16年度(2004年度) 樅原市文化財調査年報』橿原市教育委員会
- 奈良県立橿原考古学研究所・(財)由良古代文化研究基金 1981『大和国条里復原図』
- 平岩欣太 2000「大藤原京右京北二・三条五・六坊の調査」『かしらの歴史をさぐる』7 樅原市千塚資料館
- 松井一晃 2009「大藤原京右京北三条五坊」『平成19年度(2007年度) 樅原市文化財調査年報』橿原市教育委員会

- 三好美穂 1996 「南都における平安時代前半期の土器様相 - 土師器の供膳形態を中心とした編年試案 - 」『奈良市埋蔵文化財調査センター紀要』1995
- 大和弥生文化の会 2003 『奈良県の弥生土器集成』
- 米田一 2003 「大藤原京右京北三条五坊の調査」『かしはらの歴史をさぐる』10 橿原市千塚資料館
- 2004 「大藤原京右京北二・三条五坊の調査」『かしはらの歴史をさぐる』11 橿原市千塚資料館

関連資料

図 22 遺構配置略図・遺構仮番号配置図

(遺構の切合関係は全てこの図に記載。仮番号は報告書遺構番号に対応させている。)

表 1～2 報告遺物一覧 (1)～(2)

表 3～5 検出遺構および出土遺物一覧 (1)～(3)

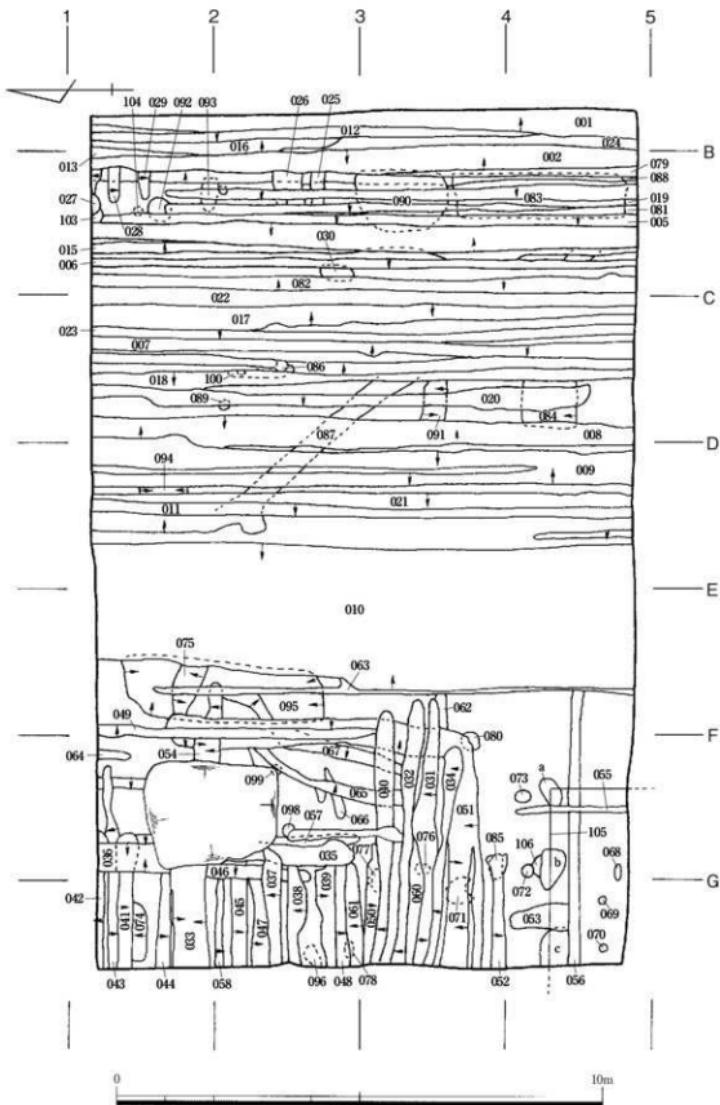


図 22 遺構配置略図 (S : 1/100)

表1 報告遺物一覧 (1)

| 種別 写真図版 | 出土箇所 層位 | 埋置 層位 | 口径-高さ-底径(cm) 保存率 | 胎土・素材 | 焼成-色調 | 特記事項 |
|--------------|----------------------|------------|------------------------------|---------------------------|--------------------|--------------|
| 国-01 国版10 | SE090 上層 | 土師器 裏 | * - (3.5) - * 口縁部破片 | 灰 ~3mm石英-長石-クサリ織 | 灰 灰7.5YR7/6 | |
| 国-02 国版10 | SE090 上層 | 土師器 裏 | * - (3.7) - * 口縁部破片 | 灰 ~3mm石英-長石-織 | 灰 灰7.5YR7/4 | |
| 国-03 国版10 | SE090 上層 | 土師器 裏 | * - (4.7) - * 口縁部破片 | 灰 ~1mm石英-長石-クサリ織-織 | 灰 灰7.5YR7/4 | |
| 国-04 国版10 | SE090 上層 | 土師器 台付裏 | * - (2.8) - (4.4) 底部20% | やや灰 ~1mm石英-長石 | 灰 灰7.5YR7/4 | |
| 国-05 国版11 | SE090 上層 | 土師器 裏 | * - (4.7) - (12.6) 台脚部20% | やや灰 ~3mm石英-長石-織 | 灰 オーリーブ灰7.5YRQ1 | |
| 国-06 国版11 | SE090 上層 | 土師器 裏 | * - (3.7) - * 柱脚部破片 | 灰 ~1mm石英-長石-織 | 灰 灰7.5YR7/3 | |
| 国-07 国版11 | SE090 上層 | 土師器 裏 | (9.0) - 8.3 - (10.5) | やや灰 ~2.5mm石英-長石-クサリ織-織 | 灰 灰2.5YR8/8 | |
| 国-08 国版11 | SE090 下層 | 土師器 裏 | * - (4.7) - * 口縁部破片 | やや灰 ~3mm石英-長石-織 | 灰 灰7.5YR7/3 | |
| 国-09 国版11 | SK092 高杯 | 土師器 裏 | * - (3.0) - (13.6) 底部10% | やや灰 ~2mm石英-長石-クサリ織 | 灰 灰7.5YR7/6 | |
| 国-10 国版11 | SK095 底部のみ | 土師器 裏 | * - (2.1) - 3.5 | やや灰 ~3mm石英-長石-織 | 灰 灰7.5YR7/3 | 庄内式前半 |
| 国-11 国版11 | SK095 高杯 | 土師器 裏 | * - (6.1) - * 柱脚部破片 | やや灰 ~2mm石英-長石-クサリ織 | 灰 灰7.5YR8/4 | 庄内式前半 |
| 国-12 国版11 | SK100 底鉢 | 土師器 裏 | * - (10.5) - * 体部破片 | 灰 ~3mm石英-長石-織 | やや不規 灰白7.5YR8/2 | |
| 国-13 国版11 | SK100 二重加工ある斜片 | | 3.7 - 8.7 - 1.2 - 22.6g | サスカイト | | |
| 国-14 国版13 | SK103 小笠丸底盤 | 土師器 裏 | 6.9 - (7.2) - 50% | 稍良 ~1mm石英-長石-クサリ織 | 灰 灰7.5YR4/2 | |
| 国-15 国版13 | SK103 小笠丸底盤 | 土師器 裏 | (7.7) - 9.2 - * | やや灰 ~3mm石英-長石 | 灰 明赤灰7.5YR5/6 | |
| 国-16 国版13 | SK103 高杯 | 土師器 裏 | * - (1.9) - * 杯部破片 | やや灰 ~4mm石英-長石-クサリ織 | 灰 灰2.5YR8/8 | |
| 国-17 国版11 | SK103 燒成品 燒成土塊 | 土師器 裏 | (6.0) - (3.5) - (3.0) | やや灰 ~3mm石英-長石-クサリ織 | 灰 灰7.5YR8/6 | |
| 国-18 国版13 | SB105 底 | 土師器 裏 | * - (1.7) - * 口縁部破片 | やや灰 ~2mm石英-長石 | 灰 灰7.5YR8/6 | |
| 国-19 国版13 | SB105 底 | 土師器 裏 | * - (2.4) - * 口縁部破片 | やや灰 ~2mm石英-長石 | 灰 灰白2.5YR8/2 | |
| 国-20 国版13 | SD075 杯A | 土師器 裏 | * - (3.5) - * 口縁部破片 | やや灰 ~1mm長石 | やや不良 橙SYR6/6 | 兔島V |
| 国-21 国版14 | SD088 杯A | 土師器 裏 | * - (2.3) - * 口縁部破片 | やや灰 ~1mm石英-長石-クサリ織 | 灰 灰SYR7/6 | 藤原京期 |
| 国-22 国版14 | SD088 杯A | 土師器 裏 | * - (3.3) - * 口縁部破片 | 灰 微小砂粒 | 灰 灰SYR6/8 | 藤原京期 風向 |
| 国-23 国版14 | SD088 杯 | 土師器 裏 | * - (2.2) - * 口縁部破片 | やや灰 ~1mm石英-長石-クサリ織 | 灰 灰SYR7/6 | |
| 国-24 国版14 | SD088 底 | 土師器 裏 | * - (2.2) - * 口縁部破片 | やや灰 ~2.5mm石英-長石 | 灰 灰SYR8/8 | |
| 国-25 国版14 | SD088 杯A | 土師器 裏 | * - (1.5) - * 口縁部破片 | 稍良 ~1mm白色砂粒、黑色粒 | 灰 BG7/0 | |
| 国-26 国版14 | SK080 皿 | 土師器 裏 | 12.7 - 2.5 - 95% | やや灰 ~1mm石英-長石-クサリ織-織 | 灰 灰7.5YR7/6 | |
| 国-27 国版14 | SP085 底 | 土師器 裏 | (5.9) - (4.5) - 20% | やや灰 ~1mmクサリ織-微小砂粒 | 灰 灰SYR6/6 | |
| 国-28 国版14 | SP085 碗A | 土師器 裏 | 11.3 - 3.7 - 70% | やや灰 ~2mm石英-長石-クサリ織 | やや不良 灰SYR8/6 | |
| 国-29 国版14 | 素面小清 | 土師器 底鉢 | * - (5.5) - * 口縁部10% | 細 ~3mm石英-長石-織 | 細 灰2.5Y3/1 | 船模式 |
| 国-30 国版14 | 素面小清 | 土師器 底鉢 | * - (7.2) - * 口縁部破片 | やや灰 ~4mm石英-長石 | 灰 灰7.5YB5/3 | 船模式 |
| 国-31 国版14 | 素面小清 | 土師器 底鉢 | * - (3.9) - * 口縁部破片 | やや灰 ~5mm石英-長石-クサリ織 | 灰 灰SYR3/2 | 船模式 |
| 国-32 国版14 | 素面小清 | 土師器 底鉢 | * - (6.1) - * 口縁部破片 | やや灰 ~4mm石英-長石-角閃石 | 灰 灰7.5YR6/3 | 船模式 |
| 国-33 国版15 | 素面小清 | 土師器 裏 | (16.0) - (5.6) - * 口縁部10% | やや灰 ~3mm石英-長石-クサリ織 | 灰 灰7.5YR6/6 | 庄内式 風向 |
| 国-34 国版15 | 素面小清 | 土師器 裏 | * - (4.0) - * 口縁部破片 | 稍良 ~1mm石英-長石-クサリ織 | 灰 灰7.5YR7/8 | 庄内式 |
| 国-35 国版15 | 素面小清 | 土師器 裏 | (3.9) - (3.5) - * 底部50% | やや灰 ~1mm石英-長石-織 | 灰 灰7.5YR5/3 | 庄内式 生駒山墓地 |
| 国-36 国版15 | 素面小清 | 土師器 裏 | * - (8.4) - (13.0) 底部80% | 灰 ~3mm石英-長石 | 灰 灰7.5YR7/3 | |
| 国-37 国版15 | 素面小清 | 土師器 裏 | (8.4) - 0.8 - 10% | やや灰 ~1mm灰-クサリ織 | 灰 灰7.5YR7/6 | |
| 国-38 国版15 | 素面小清 | 土師器 裏 | (12.0) - 2.2 - 10% | 稍良 ~1mmクサリ織-微小砂粒 | 灰 灰7.5YR7/3 | |
| 国-39 国版15 | 素面小清 | 土師器 裏 | (12.7) - (2.2) - 20% | 稍良 ~1mm灰-クサリ織-織 | 灰 灰7.5YR7/6 | |
| 国-40 国版15 | 素面小清 | 土師器 裏 | * - (2.6) - * | やや灰 ~1mm石英-長石-クサリ織-織 | 灰 灰7.5YR8/4 | |

表2 報告遺物一覧(2)

| 埠区 写真版番 | 出土遺物 番号 | 種別 器種 | 口径・高さ・底径(cm) 推定年 | 出土・材質 | 焼成・色調 | 特記事項 |
|----------------|------------|----------------|------------------------------|-------------------------|----------------------------|-------------------|
| 図20-41 図版15 | 美濃小清 度 | 土師器 度 | * - (2.4) - * | やや粗 ~1mm石英・長石・クサリ繊 | 良 灰SYR7/6 | |
| 図20-42 図版16 | 美濃小清 度 | 土師器 度 | * - (3.1) - * | やや粗 ~1mm長石・クサリ繊 | 良 灰SYR7/6 | |
| 図20-43 図版16 | 美濃小清 度C | 淡墨器 度C | * - (1.5) - * | 良 ~1mm長石・黒色粒 | 良 灰白N7/0 | |
| 図20-44 図版16 | 美濃小清 度G | 淡墨器 度G | (16.0) - 2.1 - * 25% | 良 ~5mm石英・長石 | 良 灰N6/0 | 焼として利用 飛鳥V・平城I |
| 図20-45 図版16 | 美濃小清 度 | 淡墨器 度 | * - (7.5) - 8.5 底径10% | 良 ~7mm長石・黒色粒 | 良 灰白N6/0 | |
| 図20-46 図版16 | 美濃小清 度 | 黑色土器B類 度 | * - (1.0) - * | やや粗 ~1mm長石・黒母 | 良 黒N2/0 | |
| 図20-47 図版16 | 美濃小清 度 | 瓦器 度 | * - (3.1) - * | 良 微小砂粒 | 良 灰白N6/0 灰N4/0 | IV段階B型式 |
| 図20-48 図版16 | 美濃小清 度 | 瓦器 度 | * - (2.5) - * | 良 微小砂粒 | 良 灰白N6/0 | Ⅲ段階C型式 |
| 図20-49 図版16 | 美濃小清 度 | 瓦器 度 | (13.0) - (3.5) - * 10% | 良 微小砂粒 | 良 灰N5/0 | Ⅲ段階D型式 |
| 図20-50 図版16 | 美濃小清 度 | 瓦器 度 | * - (1.0) - (5.6) 底径25% | 良 微小砂粒 | 良 Ⅲ段階B型式 | Ⅲ段階7SYR6/3 |
| 図20-51 図版17 | 美濃小清 度 | 瓦 平瓦 | (9.2) - (8.5) - (2.5) | やや粗 ~7mm白色繊 | 良 | |
| 図20-52 図版17 | 美濃小清 度 | 石器 二次加工ある剥片 | 7.0 - 8.4 - 1.5 - 84.0g | サズカイト | | 自然面有り |
| 図20-53 図版16 | 美濃小清 度 | 石器 剥片 | (12.1) - 6.7 - 4.7 - 622g | 斑レイ岩 | | |
| 図21-54 図版17 | 包含層・堆積物 | 陶文土器 深鉢 | * - (2.2) - * | やや粗 ~4mm石英・長石・黒母 | 良 にぶい黄緑7SYR5/4 | 長原式 |
| 図21-55 図版17 | 包含層・堆積物 | 土師器 度 | (17.0) - (2.0) - * | 良 10%以下 | 良 灰黄緑7SYR6/4 | 庄内式 |
| 図21-56 図版17 | 包含層・堆積物 | 土師器 度 | * - (2.7) - * | 良 ~2mm石英・長石・角閃石・クサリ繊 | 良 7SYR6/8 | 布賀式 |
| 図21-57 図版18 | 包含層・堆積物 | 土師器 度 | * - (2.7) - 3.5 底径100% | やや粗 ~3mm石英・長石 | 良 にぶい黄緑10YR7/4 | |
| 図21-58 図版18 | 包含層・堆積物 | 土師器 小型丸底盤 | * - (4.1) - * | やや粗 10% | やや不規 7SYR6/8 | |
| 図21-59 図版18 | 包含層・筒シルト | 土師器 糞C | (12.0) - 2.4 - * | やや粗 20% | やや粗 ~2mm石英・長石・クサリ繊・微小砂粒 | にぶい黄緑7SYR7/4 |
| 図21-60 図版18 | 包含層・筒シルト | 土師器 糞C | (14.0) - 2.9 - * | やや粗 20% | やや粗 ~1mm長石・黒母 | 良 7SYR6/8 |
| 図21-61 図版19 | 包含層・筒シルト | 土師器 皿 | (10.9) - 2.5 - * | 良 10% | 良 ~1mm長石・クサリ繊 | SYR7/8 |
| 図21-62 図版18 | 包含層・筒シルト | 土師器 糞C | (13.2) - 2.6 - * | やや粗 10% | 良 ~3mm石英・長石・チャート | にぶい黄緑10YR6/3 |
| 図21-63 図版18 | 包含層・筒シルト | 淡墨器 糞B | (14.1) - 3.7 - (10.1) 20% | 精良 ~2.5mm長石・黒色底粒 | 良 灰白N7/0 | |
| 図21-64 図版19 | 包含層・筒シルト | 土製円盤 | 3.2 - 3.4 - 0.5 - 5.9g | 良 微小砂粒 | 良 7SYR7/8 | 土器器用品 |
| 図21-65 図版19 | 包含層・明磚シルト | 土師器 糞A | * - (3.4) - * | 良 ~1mm長石・クサリ繊 | 良 7SYR7/8 | |
| 図21-66 図版19 | 包含層・明磚シルト | 土師器 糞A | * - (1.5) - * | やや粗 ~2mm石英・長石・クサリ繊 | 良 7SYR6/8 | |
| 図21-67 図版19 | 包含層・明磚シルト | 淡墨器 糞B | * - (3.8) - * | 良 微小砂粒 | 良 灰白N7/0 | |
| 図21-68 図版19 | 包含層・明磚シルト | 淡墨器 糞B | * - (1.0) - * | 良 ~4mm石英・長石 | 良 灰白N7/0 | |
| 図21-69 図版19 | 包含層・明磚シルト | 黑色土器A類 度 | * - (1.4) - * | 良 ~1mm角閃石 | 良 黒N1.5/0 | |

表3 検出遺様および出土遺物一覧 (1)

| S-番号 | 遺様番号 | 種別 | 所見 | 出土遺物 | 地区 |
|-------|------|------|----|---|------|
| 001 | | 素掘小溝 | | 弥生土器細片、古式土師器甕、土師器(～古代)杯・甕、須恵器(古墳)杯蓋、瓦質土器細片、形象埴輪弥生土器甕、土師器(～古代)杯・甕・壺、須恵器(古墳)甕・杯、黑色土器A細片 | A2～5 |
| 002 | | 素掘小溝 | | 弥生土器甕、土師器(～古代)杯・甕・壺、土師器(中世～)釜、須恵器(古墳)甕・杯、黑色土器A細片 | B2～5 |
| 003 | | 素掘小溝 | | 弥生土器甕、古式土師器甕、土師器(～古代)甕、須恵器(古墳)甕・壺・杯・杯蓋、須恵器(中世～)皿、円筒埴輪 | B2～5 |
| 004 | | 素掘小溝 | | 古式土師器甕、土師器(中世～)皿、須恵器(古代)甕・壺 | B2～5 |
| 005 | | 素掘小溝 | | 古式土師器高杯、土師器(～古代)甕、須恵器(古墳)杯蓋 | B2～5 |
| 006 | | 素掘小溝 | | 弥生土器甕、古式土師器甕、土師器(～古代)甕、須恵器(古墳)甕・壺 | B2～5 |
| 007 | | 素掘小溝 | | 繩文土器鉢、土師器(～古代)甕・杯・把手、須恵器(古墳)甕・杯、黑色土器A杯、瓦器柄 | C2～5 |
| 008 | | 素掘小溝 | | 繩文土器深鉢、弥生土器甕、土師器(～古代)甕・壺、須恵器(古墳)甕・瓦器柄、石器剥片 | C2～5 |
| 009 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)甕・壺、須恵器(古墳)甕・壺、瓦器柄 | D2～5 |
| 010上層 | | 溝 | | 土師器(～古代)皿・杯・甕、瓦質土器細片、圓座丸付碗、国產陶器鉢・碗、平瓦・丸瓦・軒丸瓦、タイル | D2～5 |
| 010a | | 素掘小溝 | | 繩文土器深鉢(晚期)、弥生土器甕(後期)、古式土師器甕・高杯、土師器(～古代)杯・須恵器(古墳)甕・壺 | |
| 010b | | 素掘小溝 | | 繩文土器深鉢、弥生土器甕、土師器(～古代)甕・高杯・壺、土師器(中世～)釜、須恵器(古墳)高杯、須恵器(古代)甕・杯・杯蓋、瓦質細片、瓦質土器細片 | |
| 010c | | 素掘小溝 | | 古式土師器甕、土師器(～古代)甕・壺、須恵器(古墳)甕・壺・杯・平瓶、瓦質土器柄 | |
| 011 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)杯・須恵器(古墳)甕 | D2～5 |
| 012 | | 素掘小溝 | | 弥生土器甕、土師器(～古代)杯・甕・壺、須恵器(古墳)甕・壺・黑色土器A細片 | A2～5 |
| 013 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)杯 | B2 |
| 014 | | 素掘小溝 | | 古式土師器小型丸底甕、土師器(～古代)杯・甕・黑色土器B柄、瓦器細片 | B2～5 |
| 015 | | 素掘小溝 | | 古式土師器甕・壺、土師器(～古代)甕・杯・土師器(中世～)皿・黑色土器A細片 | B2～5 |
| 016 | | 素掘小溝 | | 弥生土器甕、土師器(～古代)細片・土師器(中世～)皿・黑色土器A細片 | B2・3 |
| 017 | | 素掘小溝 | | 繩文土器深鉢(突帯文晚期)、古式土師器高杯(碗形)、土師器(～古代)杯・土師器(中世～)皿・須恵器(古墳)甕・壺・須恵器(古代)甕・壺、瓦器細片、円筒埴輪 | C2～5 |
| 018 | | 素掘小溝 | | 繩文土器細片、古式土師器高杯、土師器(～古代)甕・細片・土師器(中世～)甕・須恵器(古墳)甕・壺・須恵器(古代)甕・壺、瓦器細片、円筒埴輪 | C2～5 |
| 019 | | 素掘小溝 | | 弥生土器甕・壺、土師器(～古代)甕・杯・須恵器(古墳)甕・壺 | B2～5 |
| 020 | | 素掘小溝 | | 弥生土器甕、土師器(～古代)甕・土師器(中世～)皿・細片、黑色土器A細片 | C2～5 |
| 021 | | 素掘小溝 | | 古式土師器甕・土師器(～古代)杯・甕・土師器(中世～)釜・須恵器(古墳)甕 | D2～5 |
| 022 | | 素掘小溝 | | 繩文土器深鉢(晚期)、土師器(～古代)甕・細片・土師器(中世～)皿・須恵器(古墳)甕・壺・須恵器(古代)甕・壺・細片・黑色土器B細片・石器剥片(サカウイ) | C2～5 |
| 023 | | 素掘小溝 | | 繩文土器深鉢(晚期)、弥生土器甕・土師器(～古代)杯・甕・高杯・須恵器(古墳)甕・黑色土器A細片・瓦器細片(III-A新～III-B)、石核、石斧?・瓦細片 | C2～5 |
| 024 | | 素掘小溝 | | 弥生土器甕(後期)・土師器(～古代)細片・須恵器(古墳)甕 | A3～5 |
| 025 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)細片 | B3 |
| 026 | | 素掘小溝 | | 古式土師器甕・細片・須恵器(古墳)甕 | B3 |
| 027 | | 素掘小溝 | | 弥生土器細片 | B2 |
| 028 | | 素掘小溝 | | 弥生土器甕(後期) | B2 |
| 029 | | 素掘小溝 | | 弥生土器甕高杯・甕・細片 | B2 |
| 030 | | ヒット | | 弥生土器甕 | B3 |
| 031 | | 素掘小溝 | | 弥生土器高杯・古式土師器甕・高杯・須恵器(古墳)甕・黑色土器A細片 | E～G4 |
| 032 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)杯・細片・土師器(中世～)皿・須恵器(古墳)甕・瓦器柄 | E～G4 |
| 033 | | 素掘小溝 | | 土師器(中世～)釜・皿・須恵器(古墳)甕・黑色土器A椀 | F～G2 |
| 034 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)杯・細片・須恵器(古墳)甕・黑色土器A・B細片 | F～G4 |
| 035 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)杯・細片・須恵器(古墳)甕・黑色土器A細片 | F3 |
| 036 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)杯・細片・土師器(中世～)釜・須恵器(古墳)甕 | F2 |
| 037 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)細片 | F～G3 |
| 038 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)甕・須恵器(古墳)甕・壺 | F～G3 |
| 039 | | 素掘小溝 | | 黑色土器A細片 | F～G3 |
| 040 | | 素掘小溝 | | 繩文土器深鉢・古式土師器甕・土師器(～古代)杯・甕・須恵器(古墳)甕・壺・黑色土器A・B細片・すり石 | E・F4 |
| 041 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)細片・須恵器(古墳)甕・黑色土器B細片 | F～G2 |
| 042 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)細片 | F～G2 |

表4 條出遺構および出土遺物一覧 (2)

| S-番号 | 遺構番号 | 種別 | 所見 | 出土遺物 | 地区 |
|---------|-------|------|---------------|---|--------|
| 043 | | 素掘小溝 | | 古式土師器甕、土師器(～古代)甕、須恵器(古墳)甕 | F~G2 |
| 044 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)細片、黑色土器A細片 | G2 |
| 045 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)細片、須恵器(古墳)甕、瓦質土器細片 | G3 |
| 046 | | 素掘小溝 | | 弥生土器甕、土師器(中世～)皿 | G3 |
| 047 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)杯、土師器(中世～)皿、須恵器(古代)細片 | G3 |
| 048 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)甕・細片、土師器(中世～)釜 | G4 |
| 049 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)甕・細片、須恵器(古代)甕 | F2~4 |
| 050 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)細片、黑色土器A細片 | F~G4 |
| 051 | | 素掘小溝 | | 弥生土器甕、古式土師器甕、土師器(～古代)杯・甕、須恵器(古墳)甕・杯・高杯、須恵器(古代)甕・蓋、黑色土器A細片、瓦器陶 | G4 |
| 052 | | 素掘小溝 | | 土師器(中世～)高杯、須恵器(古代)甕 | F~G4 |
| 053 | | 素掘小溝 | | 弥生土器細片 | G5 |
| 054 | | 素掘小溝 | | 古式土師器甕(庄内)・蓋、土師器(～古代)細片、須恵器(古代)細片 | F2~3 |
| 055 | | 素掘小溝 | | 弥生土器細片、土師器(～古代)細片、圓底柒付椀 | F5 |
| 056 | | 素掘小溝 | | 古式土師器甕・蓋、高杯(脚部)、土師器(～古代)把手・甕・細片、土師器(中世～)皿、須恵器(古墳)甕 | E5~G5 |
| 057 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)細片 | F3 |
| 058 | | 素掘小溝 | | 弥生土器甕、土師器(～古代)甕・細片 | G3 |
| 059 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)細片、須恵器(古代)甕・黑色土器A細片 | F~G4 |
| 060 | | 素掘小溝 | | 須恵器(古代)杯 | F~G4 |
| 061 | | 素掘小溝 | | 古式土師器甕、土師器(～古代)細片 | F~G3 |
| 062 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)細片 | E4 |
| 063 | | 素掘小溝 | | 古式土師器高杯・甕、須恵器(古代)甕 | E2~5 |
| 064 | | 素掘小溝 | | 土師器(～古代)細片 | F2 |
| 065 | | 溝 | 斜行 | 弥生土器甕 | F3~4 |
| 066 | | 溝 | 065に切られる | 弥生土器細片 | F3 |
| 067 | | 溝 | 斜行065に平行 | 古式土師器甕(庄内)、土師器(～古代)杯・細片、黑色土器A細片 | E~F3~4 |
| 068 | | ピット | | 弥生土器甕、土師器(～古代)細片 | F5 |
| 069 | | ピット | | | G5 |
| 070 | | ピット | | 自然木 | G5 |
| 071 | | ピット | | | G4 |
| 072 | | ピット | | 土師器(～古代)細片 | F5 |
| 073 | | ピット | | 土師器(～古代)細片 | F5 |
| 074 | | 土坑 | | | G2 |
| 075 | SD075 | 溝 | | 弥生土器甕・細片、土師器(～古代)杯 | E2 |
| 076 | | ピット | | | F4 |
| 077 | | ピット | | 土師器(～古代)細片 | F~G4 |
| 078 | | ピット | | 土師器(～古代)杯 | G3 |
| 079 | | 素掘小溝 | | 弥生土器甕、土師器(～古代)甕・杯、須恵器(古代)甕・蓋 | A4~5 |
| 080 | SK090 | 土坑 | | 土師器(～古代)皿 | |
| 080上層 | | | | 土師器(～古代)細片、室生安山岩 | F4 |
| 080下層 | | | | 弥生土器甕、土師器(～古代)細片、室生安山岩 | |
| 081 | | 素掘小溝 | 東西方向 | 弥生土器細片、土師器(～古代)細片 | B5 |
| 082 | | 素掘小溝 | | 繩文土器深鉢・古式土師器甕、土師器(～古代)杯・須恵器(古代)甕 | B2~5 |
| 083 | | 落ち込み | | 弥生土器甕(後期)、土師器(～古代)杯C・甕・壺、須恵器(古代)杯、不明石器、土製円板 | B4~5 |
| 084 | | 土坑 | | 弥生土器甕、土師器(～古代)細片 | C5 |
| 085 | SP085 | ピット | | 土師器(～古代)甕 | F4 |
| 086 | SP086 | ピット | | 土師器(～古代)杯・細片 | C3 |
| 087 | SD087 | 溝 | 庄内～古墳時代 前期 | 古式土師器甕・細片 | B5~D2 |
| 088 | SD088 | 溝 | | 繩文土器深鉢・浅鉢、弥生土器甕・須恵器(古代)蓋・壺 | B2~5 |
| 089 | | ピット | | 繩文土器細片、弥生土器細片、土師器(～古代)細片 | C3 |
| 090 | SE090 | 井戸 | | 古式土器台器・甕・甕 | |
| 090黄灰細砂 | | | 嵌入土器(河内庄内甕) | 弥生土器甕・蓋・鉢、古式土師器甕・高杯、土師器(～古代)杯C、須恵器(古墳)甕・杯、黑色土器A細片 | B3 |
| 090黒褐粘土 | | | | 古式土師器甕・甕・種子(桃) | |

表5 検出遺構および出土遺物一覧 (3)

| S-番号 | 遺構番号 | 種別 | 所見 | 出土遺物 | 地区 |
|--------------------------|-------|-----|------------------|--|------|
| 091 | | 土坑 | | 縄文土器細片、古式土師器細片、土師器(～古代)杯 | C4 |
| 092 | | ピット | | 弥生土器甕(後期)・細片 | B2 |
| 093 | SK093 | ピット | | 弥生土器高杯・甕・細片 | B2 |
| 094 | | 土坑 | | 弥生土器甕 | D2 |
| 095上層 | SK095 | 土坑 | | 縄文土器鉢、古式土師器甕・高杯・壺 | E2・3 |
| 095下層 | | | | 弥生土器甕・高杯 | |
| 096 | | ピット | | | G3 |
| 097 | | ピット | | 土師器(～古代)杯・高杯 | G3 |
| 098 | | ピット | | | F3 |
| 099 | | ピット | | 弥生土器甕・壺 | F3 |
| 100 | SK100 | 土坑 | | 縄文土器(深鉢以晚期)、石器櫛? | C3 |
| 101 | | ? | | 弥生土器細片、土師器(～古代)甕 | D2・3 |
| 102 | | ? | | 弥生土器細片、土師器(～古代)壺・細片 | D2・3 |
| 103 | SK103 | 土坑 | | 古式土師器小型丸底壺、器台、不明土製品 | B2 |
| 104 | | ピット | | 土師器(～古代)細片 | B2 |
| 105a | SB105 | 柱列 | | 土師器(～古代)壺 | F・G5 |
| 105a掘方 | | | | 土師器(～古代)甕・杯・細片 | |
| 105b掘方 | | | | 土師器(～古代)甕・細片 | |
| 105b柱穴 | | | | 古式土師器細片 | |
| 105c掘方 | | | | 弥生土器細片、土師器(～古代)杯・甕・細片 | |
| 105c柱穴 | | | | 土師器(～古代)甕・杯 | |
| 106 | | ピット | | 土師器(～古代)細片 | F5 |
| 暗掲砂 | | 包含層 | | 弥生土器甕・壺、古式土師器小型丸底壺・甕・高杯、土師器(～古代)甕、須恵器(古代)甕・杯 | |
| 明掲シルト | | 包含層 | | 古式土師器甕、土師器(～古代)杯・高杯、須恵器(古代)甕・杯・壺、黒色土器B杯、平瓦 | |
| 掲シルト | | 包含層 | | 縄文土器鉢(晚期)、弥生土器甕、土師器(～古代)窯甕・杯・甕・高杯、土師器(中世～)皿、須恵器(古墳)杯、須恵器(古代)甕、黒色土器B杯、瓦器碗 | |
| 暗掲シルト (素掘小溝埋土 蓋じり) | | 包含層 | 遺物は基本的に素掘小溝に帰属する | 弥生土器甕・壺、古式土師器小型丸底壺、土師器(～古代)甕・壺、須恵器(古代)甕・蓋・杯・細片、黒色土器A細片、瓦器碗、土馬、平瓦 | |

写真図版

※遺物写真的番号は報告番号に対応

図版 1



調査区西半全景（南から）



調査区東半全景（南から）

図版 2



SE090 土層断面（南西から）



SD087 土層断面（南東から）

図版 3



SK093 土層断面（南から）



SK095 土層断面（北東から）

図版 4



SK100 土層断面（南から）



SK103 遺物出土状況（南から）

図版 5



SB105 全景（西から）



SD075 土層断面（東から）

図版 6

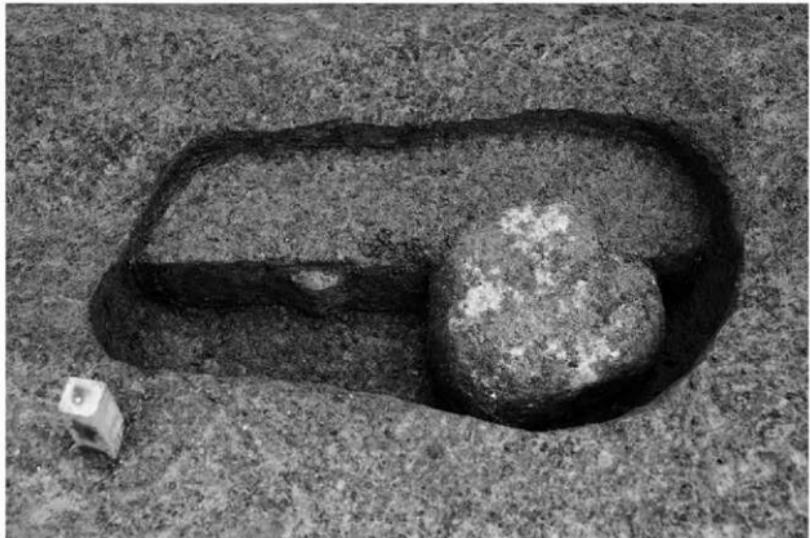


SD088 土層断面（南から）



SK080 土層断面（東から）

図版 7



SP085 土層断面 (南から)



SP086 土層断面 (南から)

図版 8



素掘小溝検出状況（北東から）



調査区南壁土層断面（北から）

図版 9

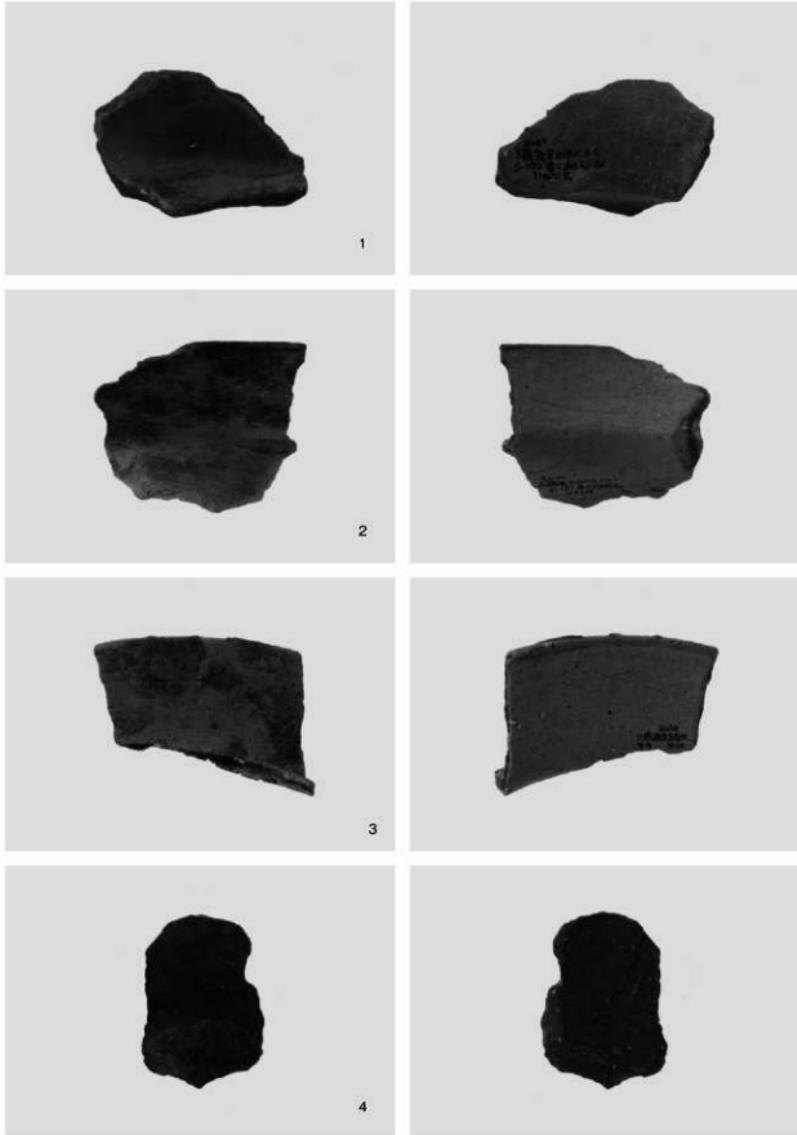


調査区北壁土層断面（南西から）



下層確認深掘トレンチ（南東から）

図版 10



図版 11



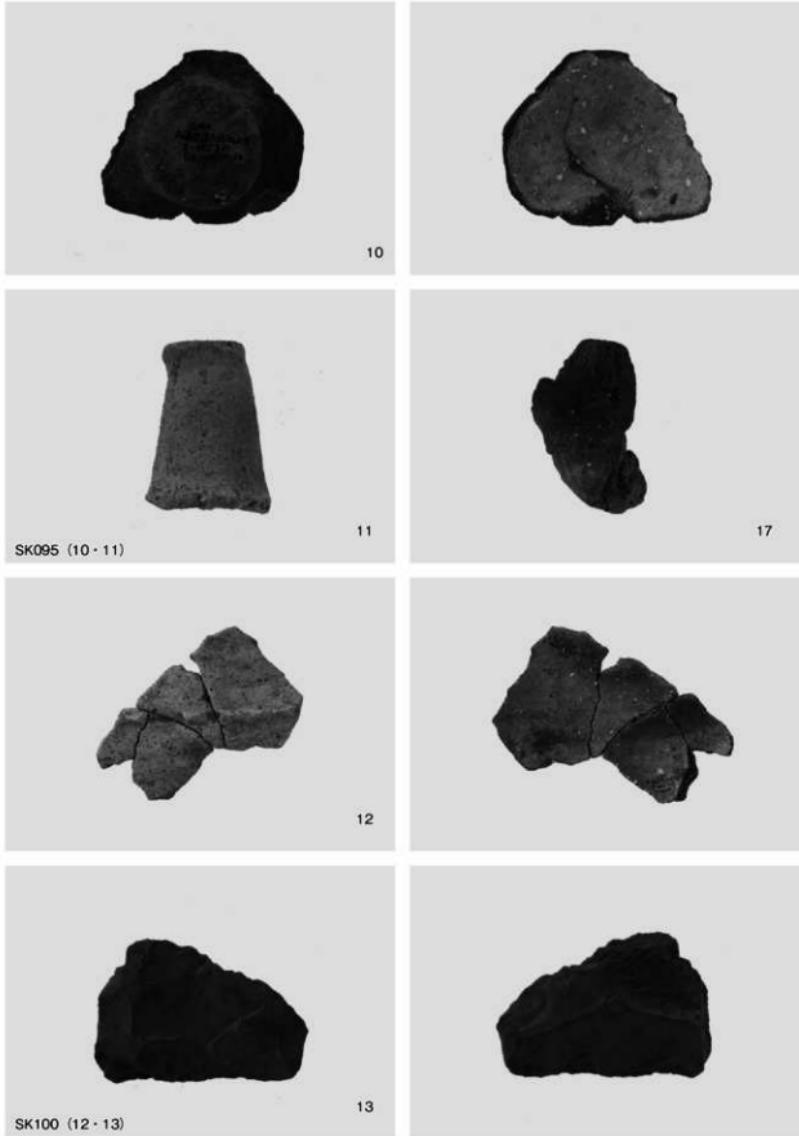
SE090 (1 ~ 8)



SK093



図版 12



図版 13



14

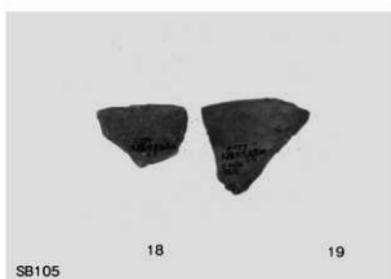


15



16

SK103 (14 ~ 17)



18

19

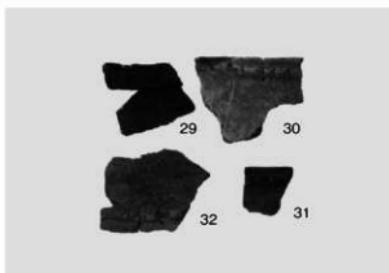
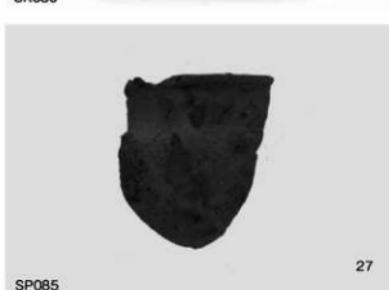
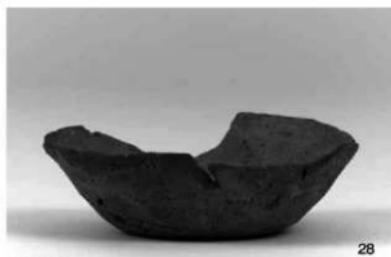
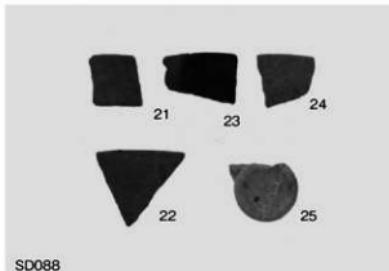
SB105



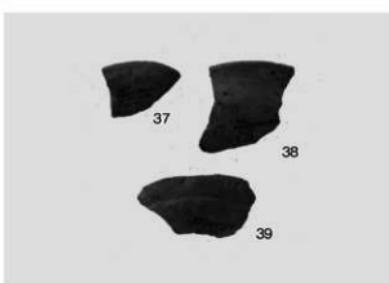
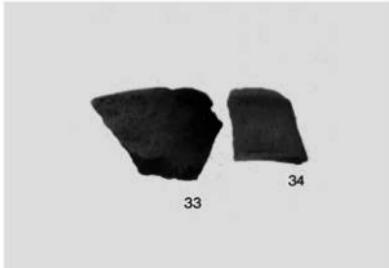
20

SD075

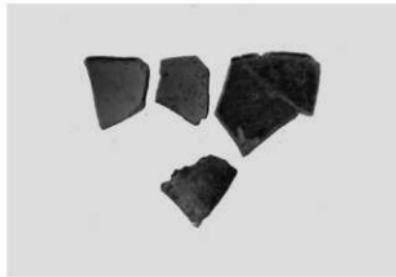
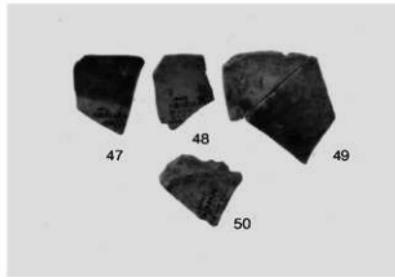
図版 14



図版 15



図版 16



図版 17



51



52

素掘小溝 (29 ~ 53)



54



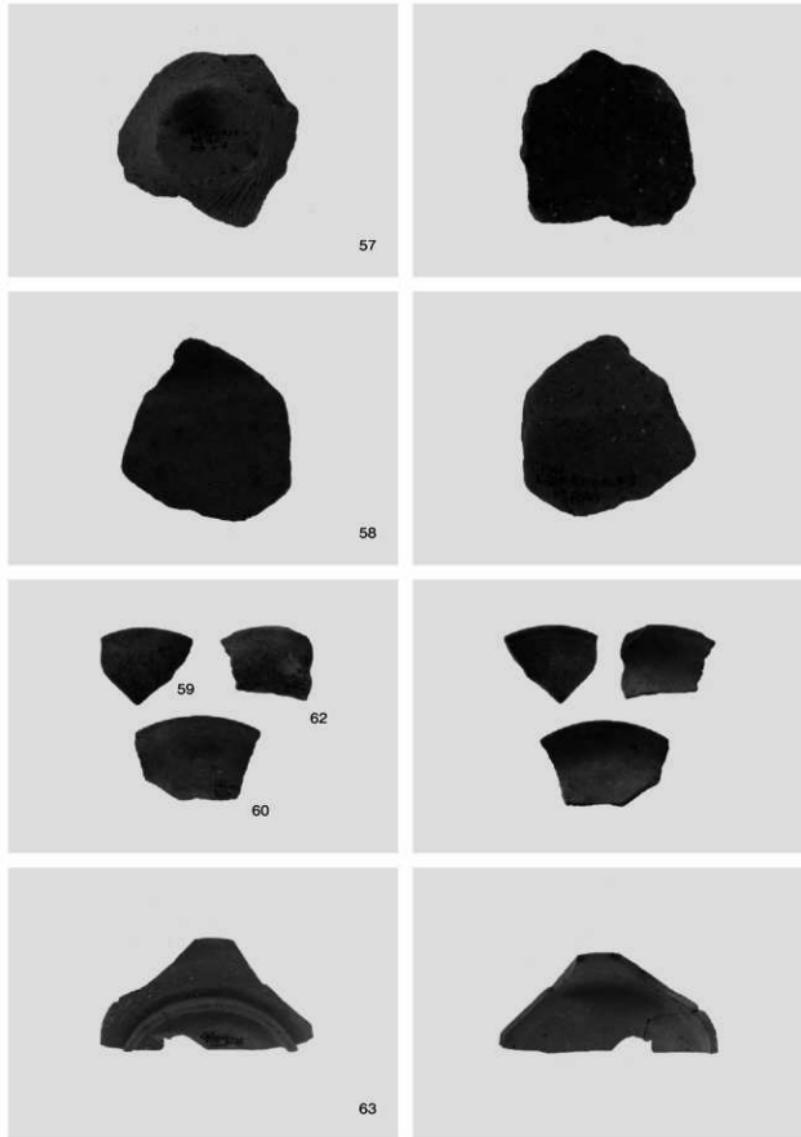
EPA
EAST ASIAN
ARCHAEOLOGY
EXHIBITION



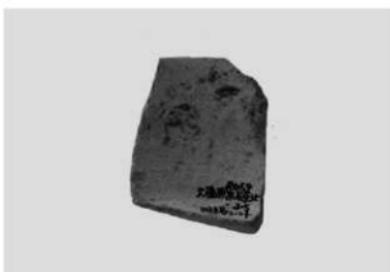
55

56

図版 18



図版 19



包含層 (54 ~ 69)

報告書抄録

大藤原京右京北三条五坊

平成 22 年度発掘調査報告書

2011.12

(発行・編集) 財団法人元興寺文化財研究所

(印刷) 株式会社 明新社

